

伊丹福音ルーテル教会 四旬節第二主日礼拝のしおり

2023 年 3 月 5 日

前奏

招きのことば：詩編 121 編 1-5, 8 節

【都に上る歌】目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る 天地を造られた主のもとから。
どうか、主があなたを助けて 足がよろめかないようにし まどろむことなく見守ってくださる
ように。
見よ、イスラエルを見守る方は まどろむことなく、眠ることもない。
主はあなたを見守る方 あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。|
あなたの出で立つのも帰るのも主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しい命をいただいて 一週間を始めます。

父なる神様、私たちを大切にしてくださってありがとうございます。独り子であるイエス様を私たちの救い主となるためにお送りくださり、感謝をいたします。イエス様は私たちのために苦しみをしのばれました。人々に苦しめられ、ついに恥と呪いの十字架にかけられても、敵を赦しつつ、ご自分は私たちのかわりに罪の裁きをすべて受けつくしてくださいました。父なる神様、あなたは私たちがイエス様を信じて、罪の赦しをいただくことができるように、また新しい命を生きることができるよう、私たちを大切にしてくださってありがとうございます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ローマの信徒への手紙4章 1-5, 13-17 節

では、肉によるわたしたちの先祖アブラハムは何を得たと言うべきでしょうか。もし、彼が行いによって義とされたのであれば、誇ってもよいが、神の前ではそれはできません。聖書には何と書いてありますか。「アブラハムは神を信じた。それが、彼の義と認められた」とあります。ところで、働く者に対する報酬は恵みではなく、当然支払われるべきものと見なされています。しかし、不信心な者を義とされる方を信じる人は、働きがなくても、その信仰が義と認められます。/

神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせることを約束されたが、その約束は、律法に基づいてではなく、信仰による義に基づいてなされたのです。律法に頼る者が世界を受け継ぐのであれば、信仰はもはや無意味であり、約束は廃止されたこととなります。実に、律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違犯ありません。従って、信仰によってこそ世界を受け継ぐ者となるのです。恵みによって、アブラハムのすべての子孫、つまり、単に律法に頼る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあずかれるのです。彼はわたしたちすべての父です。「わたしはあなたを多くの民の父と定めた」と書いてあるとおりです。死者に命を与え、存在していないものを呼び出して存在させる神を、アブラハムは信じ、その御前でわたしたちの父となったのです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書3章 1－17 節

さて、ファリサイ派に属する、ニコデモという人がいた。ユダヤ人たちの議員であった。ある夜、イエスのもとに来て言った。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師で

あることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」

イエスは答えて言われた。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができるでしょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるのでしょうか。」イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。だれでも水と霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」

するとニコデモは、「どうして、そんなことがありえましょうか」と言った。イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか。はっきり言うておく。わたしたちは知っていることを語り、見たことを証ししているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れない。わたしが地上のことを話しても信じないとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう。天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもいない。そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」

讃美歌 142 番

- 1 栄えの主イエスの 十字架を仰げば 世の富 誉れは 塵(ちり)にぞ 等しき
- 2 十字架のほかには 誇りは あらざれ この世の 物のみな 消えなば 消え去れ
- 3 見よ 主の御顔(みかしら) 御手 御足よりぞ 恵みと悲しみ こもごも 流ながるる
- 4 恵みと悲しみ 一つに溶け合い いばらはまばゆき 冠(かむり)と 輝かがやく
- 5 ああ主の恵みに 報ゆる術(すべ)なし ただ身と魂(たま)とを 献(けん)げてぬかずく **アーメン**

説教：「独り子をお与えになったほどに」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

若いイエス様のところにまじめな、そして老練なユダヤ人の指導者が訪ねてきました。イエス様は立派なこの人が、一生懸命自分で努力して、自分のまがった心を改善することができたら神の国を見ることができると思っていたことを、はっきり間違っていると教えました。皆さん

はいかがでしょうか。自分のまがった心をどうにかして直したい、と思いませんか。自分中心でわがままな心を、人の世話にならないで自分で少しずつ直していくしかない、と思いませんか。そして努力の暁には、神様が、よくがんばったね、と認めてくれる、と期待していいでしょうか。しかし、そうではないのです。

この人はニコデモという名前でした。ファリサイ派という、ユダヤ人の中でも規律の厳しい宗派に属していて、国会議員でもあった人です。私たちが普通の生活では出会えないような、住む世界の違う高尚な先生でした。自分たちこそ神様に選ばれて、自分がしっかり律法を守る生活をするだけではなく、人々にも教えたり指導したりする立場の者である、と自認していました。しかし、ニコデモはイエス様の言動を見て、この人はほかの人と違う、神様から遣わされてきた教師で、神様がともにいてくださるのでこのような御業をすることができるのだと思ってイエス様を訪ね、最高の敬意を払ってイエス様に挨拶をしました。夜、来ていると書いています。もしかしたらほかの人に見られないように、イエス様のところをこっそり訪ねたのかもかもしれません。なぜイエス様のところに来たのか、それは聖書に書いていませんので私たちは推測するしかありません。

しかし、イエス様はニコデモの心をご存じだったようです。まっすぐにニコデモに語りかけました。「はっきり言うておく。人は新たに生まれなければ神の国を見ることはできない」という言葉です。新たに生まれる、という言葉は、神様から生まれる、上から生まれるというようにも訳すことができる言葉です。ニコデモにとっては、今まで生きてきた命では、神の国を見ることはできない、という衝撃的な言葉でした。おそらくニコデモはイエス様に、あなたの言動を見ていたら神様から来た教師で神様がともにいてくださる教師だと思いました、どうすればそんな教師になれるのでしょうか、どうすれば私も神様がともにいてくださるような知恵深く、愛に満ち、勇敢で、人を生かす言葉を教えることができるようになるのでしょうか、と聞きたかったのでしょう。けれどもイエス様はそのニコデモに、あなたはいくらがんばっても神の国を見ることはできません、あなた自身が努力によってよい人になっていくことはありません、あなたは生まれ変わらなければなりません、と言われたのです。

意外なイエス様の言葉に、ニコデモは驚きました。私がどれだけがんばってきたか、ご存じないのですか、と少しプライドを傷つけられて怒ったかもしれませんね。ニコデモは「イエス様、どういことでしょうか。もう一度お母さんのおなかから生まれることはもう年取っていますのでできません」と言いました。イエス様は続いて更に不思議なことを言われました。「だれでも水と霊によって生まれなければ神の国に入ることはできない、神様の霊がその思いのままにあなたを新しく生み出してください。」ニコデモはたくさんの新しいことを次々に聞いて、イエス様に、どうしてそんなことがありましようか、と答えています。

けれども、このイエス様のお答えが私たちへのメッセージでもあります。イエス様は私たちの罪を赦してくださいます。私たちが罪の力に打ち勝って、喜んで、正しく愛をもって歩む新し

い命を与えてくださいます。そしてそれは私たちがイエス様が普通の人ではなくて神様から遣わされた救い主であると感じて、水の洗礼を受けるとき、神様の霊の働きによってあなたに新しい、上からの命が与えられるというメッセージです。

小教理問答の洗礼のところをお学びになったことがおありでしょう。洗礼は私たちをイエス様とひとつにします。自分自身の神様に喜ばれない性質や、自分でどうしようもない自分中心な言葉や思いや行いのすべてを、そのまま認めて、神様に、わたしはこんな者です、と罪を悲しめばいいのです。私たちはそうしませんね。自分の欠点や足りないところを自分で見たとき、私たちはがっかりして、気持ちが暗くなってしまいます。そして、自分の心の勇気を全部絞り集めて、何とかもう少しましなことを考え行う人にならなければならないと思います。自分で努力もしないで全部神様にまかせるというのは不誠実だと思います。でも事実、がんばっても改善しません。洗礼を受けたとき、私たちは水をかけていただきました。聖霊はあなたを洗礼によってイエス様とひとつにしてくださいます。そのとき、聖霊はあなたの内にある古い人、うまれながらの罪びとであるあなたを、すべての罪や悪い欲とともに溺れて死ぬようにしてくださいました。イエス様があなたの古い、罪深い人に死んでくださいました。あなたのためにイエス様があなたの古い人に死んでくださったのです。

あなたの古い人はおぼれ死にましたが、さらにイエス様はあなたのためによみがえってくださいました。その命をあなたはいただきます。とこしえに神様の前で正しく純粋な人として生きていく新しい人が、毎日、再び現れます。聖霊によってイエス様のよみがえりの命をいただきます。毎日私たちは洗礼のことを思い出して、自分の古い人に死んで、イエス様の新しい命に生かされるという、洗礼のリズムに生きていきます。

イエス様は昔モーセが荒野を旅した時、民の不平不満の罪を赦すために高く掲げられた青銅の蛇のお話をされました。ニコデモはそのお話をよく知っていました。お話しくださったイエス様ご自身がのちに、この蛇のようにイエス様は十字架にかかって高く掲げられてくださいました。水と霊によって生まれると、ニコデモの罪はイエス様の十字架の死によって神様から正しく赦されます。それだけではなく、よみがえられたイエス様の新しい命にあずかります。ニコデモはイエス様によって新しい命をいただくことを信じました。

私たちは日々、洗礼の時に確かにいただいたイエス様の赦しと、そしてイエス様の復活にあずかった新しい命に生きていきます。自分の努力の頼って生きていくと、まるで二歩進んでも三歩さがってしまうような、改善の実を結ぶことなく生きていくことになります。そのような生活はイエス様が十字架で終わらせてくださいました。私たちはイエス様のもとにいつもとどまって、イエス様が自分の古い人に死んでくださったことを感謝して、新しい、上からの命にみなぎらせていただき、罪と死と悪魔の力から自由にされて人々の役に立つ人として歩みます。

自分の努力によって自分を高めていくという人は途中で諦めます。このあたりでいいか、と自分を甘やかします。しかし、新しい命をいただいて、自分ではなく主イエス様が私の主となってくださった人の中では、その新しい命によって自分の限界を超えて意欲的に勉強し、自分を磨きます。なぜなら心にあるのは自分の姿ではなく、自分を鍛えることでできれば助けを得てほしい愛する人々の姿だからです。途中で諦めず、よりクリエイティブに、もっと人の役にたつことができないかな、と積極的に求めます。自分が無力なもの、ということはわかっていきます。でも今までのようにそれで落ち込んだり、失望したり、欲求不満になって不平不満を巻き散らかしません。神様が新しい命をくださったのです。神様を恐れ、人を恐れず、自分の力に頼らず、失敗を恐れず、劣等感にさいなまれずイエス様の威厳をもって、自分の置かれたところで気づかされた働きにいそむ新しい命です。自分の枠を超えたことでも、イエス様を主とあおいで、主がなしてくださることを期待して歩みます。これが、洗礼にあずかった人、またいつも洗礼によっていただいたイエス様の赦しと命に土台をおいて生きていく人の、永遠の命を生きる幸せな毎日です。

ヨハネ 19 章 39 節を見ると、このニコデモは十字架で死なれたイエス様のお体を自分の持ってきた高価な香油で進んできれいにしました。神様はあなたのために新しい命を与えてくださいます。独り子イエス様をあなたのためにお与えくださった神様は、イエス様と洗礼によってひとつにしてくださり、また聖餐式においてあなたにお出会います。

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。ヨハネによる福音書 3 章 16 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあって我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。**アーメン**

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。**アーメン**

だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番**赦しの宣言**

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。**アーメン**

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあって我らは歩む。 ※

讃美歌 136 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 血潮したたる 主のみかしら、棘に刺されし 主のみかしら、
悩みと恥に やつれし主を、我はかしこみ きみと仰ぐ
- 2 主の苦しみは 我がためなり、我は死ぬべき 罪びとなり、
かかるわが身に かわりましし 主のみこころは いとかしこし
- 3 なつかしき主よ はかり知れぬ 十字架の愛に いかに応えん
この身とたまを とこしえまで 我が主のものと なさせたまえ
- 4 主よ、主のもとに 帰る日まで 十字架のかげに 立たせたまえ
御顔を仰ぎ み手によらば、いまわの息も 安けくあらん **アーメン**

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に、ときわに たえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。**アーメン**

後奏